

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 甲突悠暮里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市郡山町68番地
記入者名 (管理者)	櫻井 みどり
記入日	平成 22 年 1 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその生活を主とした理念を法人全体としてつくっている。		今後、より地域に密着したサービスとしての機能を理解し、その理解した事柄に即した理念を作りあげていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、職員会議や申し送り・ミーティング等で理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へは施設内に掲示したり、地域の人々には、地域主催で開催される文化祭等でパンフレットを配布しながら説明を行ったりして施設の理念を理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々との挨拶は絶えず行っている。時には地域の方が「野菜を作ったので食べてください。」と持ってきてくださったり、中学生がボランティアで花鉢を持って来園することもあった。また、地域の民生委員の方々が歌や踊り、三味線、太鼓等を披露してくださったりと付き合いの輪を広げていっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や馬場市(地元の通りを利用した出店)等の催しに参加して、地元の人々との交流に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	郡山地区の人権擁護研修会や認知症家族の会等に参加をし、認知症の高齢者に対する理解や接し方の方法をより深く習得するとともに、必要に応じて介護保険のサービスのあり方等について勉強会などを開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は年に一回実施している。また、外部評価で改善事項等の指摘を受けた事項については、職場内研修やミーティング等にて検討し改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね二ヶ月に一回開催している。利用者へ提供しているサービスの実際及び評価への取り組み状況について報告や話し合いを行い、各部門から意見等をいただいている。いただいた意見等については、職員会議やミーティングで話し合い、より良いサービスの実践に向けて努力している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市町村に出向き、随時情報を交換したり、意見を求めるように努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んではいるが、現在、この制度を活用されている利用者はいらっしゃらない。今後も必要な利用者が入所された場合は活用できるように支援していく。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画の中に高齢者虐待についてのテーマを設けて研修を行ったり、外部研修に参加したりしている。また、朝礼時やミーティング時に高齢者虐待防止について指導しており、全職員に周知徹底している。虐待は一切ない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する前に、できるだけ見学や体験をしていただき、不安や疑問を回避してもらってから契約するように努めている。契約時には、契約書の内容や重要事項の説明を充分に行い、理解・納得を得るようにしている。また、解約のさいにも、十分な説明を行って、理解・納得を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談受付者・苦情相談解決責任者・第三者委員を設けて、苦情の対応を行っている。また、意見箱を設置している。苦情が寄せられたさいには、随時会議を開催し、その苦情の検討を行い対策を講じながら、出来る範囲で施設運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等については、面会時や事業所だより等で定期的に報告している。また、緊急時等の場合には、個々の心身状態にあわせて随時行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個々にご家族が来所された時に、いろいろなご意見を伺うように環境を整えているが、なかなか出てこない。意見箱の設置もしているが、同じように意見は入っていない。</p>	<p>定期的に個別に家族会(仮称)を企画して、施設運営に反映していきたいと考えている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やミーティング、個々の相談等をとおして、意見交換を行いながら、必要に応じて運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要時にミーティングを実施し、きちんとした対応ができるよう勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来るだけ職員の退職や異動等は最小限に抑える努力をしているが、やむを得ない場合には、新規採用者と一定期間、一緒に業務にあたってもらい、十分な引継ぎを行うことで、利用者へのダメージを防ぐようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の事業所内研修を実施している。また、適材適所に応じた外部研修に参加してもらうとともに、自己啓蒙研修についての情報は、すべて回覧にて提示している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部の管理者研修等に参加し、ある程度、他事業所の職員との交流はもっているものの、その他の職員は他事業所との職員間の交流は、ほとんど出来ていない。		勤務等の関係で難しい面もあるが、来年度は、出来るだけ年間研修計画の中に取り込んでいきたいと考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	随時、運営者が管理者や職員と個々にコミュニケーションがとれる機会を設け、問題点や相談事に対応している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員には半年に一度、各々の自己目標を設定してもらい、その後、半年ごとに自己評価してもらっている。個々の自己評価と運営者からみた個々の職員の努力や実績、勤務状況等をできるだけ配慮した評価を併せ持ってその職員の評価としている。その評価を基礎として、向上心を持って働けるようにアドバイスをしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテークから利用に至るまで、できるだけご本人と話せる機会を設け、困っていることや不安なこと、求めていること等の意向をよく聴きながら受容する努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回アセスメントによりご本人はもちろんのこと、ご家族の困ったこと、不安なこと、求めていることをよく聴きプランに反映している。また、随時、ご家族等と話す機会を設けてできるだけニーズを受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントによりご本人はもちろんのこと、ご家族の困ったこと、不安なこと、求めていることをよく聴きプランに反映している。また、随時、ご家族等と話す機会を設けてできるだけニーズを受け止め、今必要としているものは何なのかを見極め、他のサービスも含めた対応ができるように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験の利用から、徐々に利用時間を延ばしたり、利用回数を増やしたりして、場の雰囲気慣れてもらいながら職員及び他の利用者とのコミュニケーションが図られるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、同じ空間・同じ時間を共有する、ある意味家族としての感覚で利用者と接している。一緒にレクリエーションをしたり、外出行事等で季節を感じながら、同じものに感動したりしていく時間の中で、話を伺ったり、話を聴いてもらったりして、お互いに支えあう関係づくりに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	住み慣れたご自宅で心が解りあえた家族を中心に、相互に連携をはかりながら、より良い関係を築く努力を行っている。施設内外の行事への参加の案内をし、ご家族と一緒に食事をとるなどの交流に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでのご本人とご家族の関係を尊重しながら、修復できる部分は修復できるよう支援している。また、より良い関係が保たれるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設ですっと生活するだけではなく、ご家族との話し合いにより、時には自宅で外泊してみたり、日帰りで帰宅してみたり、(中には出来ない利用者もいらっしゃる。)できるだけ馴染みの人たちや場所との関係が途切れないように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者間の関わりの状況を常に把握しながら、孤立しないような環境づくり等に配慮しながら、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームを退所されてからも関係は持ち続けている。必要な時には相談に応じ、在宅生活を支援する努力をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。ただ、急な外出の希望がでた場合には、職員の配置等で困難な場合がある。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談受付から初回アセスメントの間にご本人やご家族から、できるだけ詳しく生活歴や暮らし方、生活環境等をお聞きしているが、入所されてから徐々に判明してくるものも多い。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を把握し、日々の生活が安心して送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や希望を踏まえての話し合いや主治医の意見等、必要な関係者の意見等を踏まえたうえで介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じ見直しを行っている。ただし、見直し以前に対応できない変化が生じた場合には、随時その時点で、ご本人、ご家族、その他関係者と話し合いを行い、計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録にバイタルサイン・排泄・食事量等のチェックや日々の様子、ケアの状況、個別の気づき等を記録し、情報を共有している。また、その情報に基づき実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族のその時々々の状況や要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		民生委員、警察、消防は地域連絡協議会、教育は小学校や中学校のボランティアとの交流会、文化は公民館を利用した地域文化祭への参加を行っている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、他のサービス事業諸を利用している方はいらっしゃらないが、必要に応じて他のサービスも利用できるように、地域包括支援センターのケアマネージャーとは、定期的に話し合いを設けている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について随時、情報を交換しながら連携をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は良好に保たれている。ただ、必要時に応じては、ご本人やご家族の希望や意思を尊重し、他の医療機関と連携を取りながら、適切な医療が受けられるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等認知症に詳しい医師に利用者の情報の提供を行い、相談をしながら、どのような手段、どのような方法等がいいのか指導を仰ぎながら支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師や当施設内の看護職員と連携体制を取りながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院したさいには、詳しく且つ細かく情報の提供を行うとともに、できるだけ早期に退院できるように、常に病院関係者との情報交換を密に行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前に重度化した場合や終末期のあり方については、ご本人、ご家族、かかりつけ医等と話し合い、必要に応じては書面にて同意をいただき、全員で方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、重度化している方や終末期の方はいらっしゃらないが、今後そのような利用者がおられた場合には、重度化した場合における対応に関わる指針(施設で作成したマニュアル書)に基づいて対応していく。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が自宅や別の居所へ移り住むさいには、ご家族及びご本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや緻密な情報交換を行い、ご本人がダメージを受けないように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご本人の人権を尊重しながら、その日の心身状態に応じた言葉かけや対応に心がけている。また、記録等の記載や調べものについては、必ず事務所にて行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>結論を急がすような言葉かけを避け、常に傾聴の姿勢で支援している。また、利用者個々に、事前に理解できるような説明をしながら、自己決定ができるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の思いを尊重しながら、利用者のペースにあわせ、その日の心身状態を考慮し、希望に沿った支援に心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>更衣時には、必ずご本人の意見を聞きながら対応している。理容・美容については、ご本人の望む店に行かれている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に一部調理の手伝いや準備・後片付け等を手伝ってもらっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等(医師からの指示で制限のある利用者もおられる。)一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。たばこのについては喫煙所で吸ってもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各ご利用者の排泄パターンを把握しながら対応している。また、リハビリパンツやパット等を使用されている利用者には、自尊心を傷つけないように声かけをしてトイレでの排泄を促がしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	施設側である程度、曜日や時間帯を決めて入浴をお願いしているが、必要に応じては、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況(休息したい時や体調不良の時等)に合わせて休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなことや興味のあることを継続して行えるよう支援している。また、余り趣味などがない利用者については、ご自身の意思を尊重しながら、レクリエーションや音楽療法に参加してもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や能力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。ただし、大金は金銭トラブルの原因になるため、原則として持ち込まないこととしている。また、利用者ご自身で管理するさいには、必ずご家族立会いの下で確認してもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望によって近場のドライブや買物の支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事に利用者の希望をお聞きし、外出行事を組み入れている。外出行事のさいには、ご家族の参加をお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家庭や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。【できる範囲はすべて利用者に行ってもらい、出来ない部分(電話番号を押せないとか・宛名がかけないとか等)については援助している。】		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人の馴染みの方たちが出来るだけ気軽に訪問できるような環境を提供している。また、ご本人やご家族が、その日のニーズで居室やリビング、和室等を使い分けが出来るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアル等を作成し、施設内研修やミーティング等で身体拘束を行わないケアを周知徹底している。施設内において、身体拘束は行われていない。ただし、どうしても身体拘束をしなければならない事態においては、必ずご家族に説明をした上で同意をもらうようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、施錠することの弊害を理解しており、日中居室や玄関に鍵はかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの行動を把握し、昼夜を問わず、ご本人のプライバシーに配慮しながら見守りを常に行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は職員が管理し、服薬の確認まで行っている。また、注意の必要なものは一人ひとりの状態に応じて、場合によっては施錠できる倉庫へ随時保管してあり、危険を防ぐ取り組みに心がけている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や訓練をとおして危険防止の知識を学び理解するとともに、日々のミーティングの中で利用者の心身状態を職員間で共有しながら、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員を対象に、消防署の職員や当グループの看護師による救急時の対応や心肺蘇生法等を行っている。		救急時の対応や心配蘇生法の研修は行ってはいるものの、きちんとした計画のもとで行ってはいない。今後、計画をたてながら、定期的な施設内研修のひとつとして位置づけをしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署職員の立会いのもと、避難訓練・通報訓練・消火訓練を実施している。また、年に一回は夜間時を想定した訓練を行い、近隣の住民の協力体制をお願いしている。		消防署や警察には、必要に応じて地域連絡協議会に出席していただき、災害時の協力体制の説明等を話してもらっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々により起こり得るリスクが異なる為、起こり得るリスクは、随時ご本人やご家族に説明を行いながら、利用者が抑圧感のない暮らしができるように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・昼のミーティングや夜勤者との申し送り時に、利用者の心身状態について把握するようにしている。また、体調の変化や異変に気づいた際には速やかに情報を共有し、緊急のさいには、緊急マニュアルにそって対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用されている薬については、各職員は処方箋を熟読し理解している。また、処方箋以外に薬価本を準備しており、副作用や服薬するうえでの注意事項等を理解しながら、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的な水分補給に加え、リハビリ訓練やレクリエーション等を通じて身体を動かす時間を設けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きや含嗽の声かけを行いながら、介助が必要な利用者には介助にて清潔を保っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1600kcalを目安に栄養バランスを考慮した献立をつくっている。食事量や水分摂取量も一人ひとりチェックを行い、必要に応じて支援しながら、随時、利用者の身体状態に応じて軟食やきざみ食・一口大等の提供を行っている。また、職員は給食担当者研修会等に参加して、より良い食事の提供を考えている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアル等を作成し、随時、施設内研修を行いながら、感染予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は毎日整理整頓し、清潔に保つように努めている。食材も新鮮なものを使う量だけ購入し、消費期間内に使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺や玄関等は常に整理整頓をし、また開放的にし、利用者やご家族、近隣の方々が入りやすいように心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者にとって不快な音はなく、光も明る過ぎず暗過ぎず、ちょうど良い光の状態だと思っている。また、共用の空間には、季節を感じることで飾り物や花などを置くように心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを広くとったり、和室の場を設けたりして、利用者が思い思いに過ごせるようなスペースを確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウト等は出来るだけご本人・ご家族の意見を尊重しながら相談して行っている。現在、入所されている利用者は、居心地良く生活されていると思う。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整に気をつけながら、常に換気に努めている。また、気になるにおいが出ないように、においの元に注意し、外部から来られた方への注意も払っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部はすべてバリアフリーである。また、リビングや廊下やトイレ等にははすりを設置しており、安全に移動することができる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の今出来ることを継続して行っていけるように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りを広く取っているので、時には散歩をしたり、行事に活用したりしている。また、ベランダに花壇をつくって利用者といっしょに野菜や花の苗を植えたりして楽しんでいる。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員と利用者ができるだけ一緒にいれる時間を多く持ち、さりげない日常生活の中で、その人らしい生活が送っていただけるよう支援している。そのためにも、職員ペースで時間を合わすようなことはしていない。